

今有効ト認メ居リ矣條此段及御回答矣也

年月日

次官

宛

青木

内務省 第九號 八月廿七日 九月廿五日 文書課長 行施 月 日

明治廿九年 八月廿七日 主査 警務課長

警保局長 藤田

大臣 赤

次官 五

多事 官 水松 廣瀬 杉山

農商務省 大臣 教康

次官 和田

商工局長 森田

文書日課長 藤田

岡 藤田 肥田

抄

日 務 省

汽罐類取締規則制定ノ件ニ付
稟申

新潟縣

右ハ近時工業ノ發達ニ伴ヒ各般ノ事業ニ
機械力ヲ應用スルノ日ニ多ク加フルト共ニ
汽機汽罐ノ粗悪老朽及其取扱ノ
不熟練等種々ノ慘害ヲ生ズトシテ
之レヲ而シテ之レカ取締
縣令ニシテ以テ之レヲ
憾事カラズ依テ新
締規則ヲ制定シ船用機關ノ取締
均一ノ検査ヲ施行スラシムト望ムニ有
候

本問題ニ關シテハ過
海縣知事ノ發議ニ基キ討議ノ結果省令制
定ハ其用ヲ認メス從來ノ如ク各地ノ状況ニ應ジ必要
アル土地ハ相當ノ取締ノ途ヲ講スハキモト議決セシ
ムルモ有之省令制定ノ議ハ差當リ別ニ
ス可然モト存シレ候得共將來工業ノ發達上之ガ
制定ノ必要トシ時域ニ有之候ハ其際ノ多ク考テ
本稟申ハ此俟差置カシ可然哉仰慮哉

新潟縣

汽罐類取締規則制定ノ件ニ付稟申

近時工業、發達ニ伴ヒ各般ノ事業ニ機械力ヲ利用
スルモノ日ニ多キヲ如ク山間ノ小部落尙汽罐類ノ設置
ノ見こ至レリ是等生産機關ノ應用ハ國力發展ノ
要素ニシテ最モ悦マヘキ現象ナリ疑ハサルニ間々船用
汽罐ノ廢物ヲ使用シ又ハ老朽既ニ危險ニ類セルモノ
用事或ハ不熟練ノ取扱者ニ委ネ爲メニ汽罐ノ破損
等竊ニ憂心スヘキ慘言ヲ生シタルノ實例ヤナカラズ
現行法ニ於テハ各縣取締規則ヲ制定シ是等機械
類ノ検査ヲ施行セリト雖モ甲乙其規ク一ニテ寬嚴
平ラ保ラ能ハザルノ憾ナシトセズ而シテ船用機關ハ船
舶検査法並ニ検査規程ニ由リテ均一ノ検査ヲ施行セ
テ以テ陸上機關ニ就テハ若令テ以テ取締規則ヲ

覽
一〇六

發令レラレシコト工場法制定ニ比シ寧ロ急務セヨク
信ス而シテ規則内容ハ設置場ノ制限構造
制限構造上ノ制限檢査規程取扱者ノ資格
等ニ就テ廣ク現下ノ状況ト機械工業ノ進歩ニ
鑑ミ適切ノ方策ヲ採用セヨトリ得ル本則ノ
制定ハ敢テ工業發展ノ進運ノ杆格スルノ虞ナキ而已
コトガ今日ニ於テ最モ適當ノ時機ナリトテ認ムカレテ
速ニ該規則制定ニテレテリ希望ス
右及直申候也

明治三十九年七月十四日

新潟縣知事 河部 浩

内務大臣 原 敬 啟

農商務大臣 松岡 康 毅 啟

送 第一三六號

本邦在留ノ諸外國人ハ改正條約實施以
來日本國臣民同様其權利ヲ伸張スルカ
為ニ我司法裁判所及行政裁判所ニ出訴
スルコトヲ得ルニ至リタルト同時ニ完全且直
接ニ帝國政府ノ行政權及裁判管轄權
ニ服従スルコトニ相成美ニ付テハ未ダ國法上
ノ救済手段ヲ盡サレル事件ニ付直ニ外交上
ノ論議ヲ開始スヘキモノニハ非サルコト當然之
義ニ有之ニ至ルニ過去六箇年間ノ經歷ニ依
レハ實際上ノ狀態ハ未ダ十分此原則ニ合致
スルニ至ラス夫是レ畢竟領事裁判ノ制度
ヲ認メタリシ旧條約時代ノ遺習ニ外ナラザ